



学校だより

R6年度
No. 3



令和7年2月25日
福島県立だて支援学校

校長あいさつ

校長 本田 知史

保護者の皆様、地域及び関係機関の皆様には、本校の児童生徒の「学び」に、御理解と御協力をいただき心より感謝申し上げます。

だて支援学校は創立3年目を迎えました。本校1期生、2期生となる高等部を卒業した18名は、それぞれの地域において、本校で学んだことを生かして自分らしく地域の一員として過ごしていることと思います。創立の年から今年度まで860人を超える見学者、内覧者の方々がお見えになりました。元気に笑顔で学ぶ児童生徒や、かかわる教職員についてお褒めの言葉をたくさんいただき、中でも「子どもたちが楽しそうに、笑顔で過ごしていることが何より良いことである」という言葉が印象に残ります。

さて、令和6年度も学校教育目標の達成に向けての日々の授業、行事を展開して参りました。数ある行事の中から学校経営運営ビジョンに掲げた「協働的な学び」を視点到に振り返りますと、主な行事、授業としては「だてっこみらいフェスティバル」「総合的な探究の時間」等がありました。

「だてっこみらいフェスティバル」では、360人を超える方々に来校をいただきました。保護者さんのみならず、ポスターを見て近隣の皆様にも多数来ていただき、児童生徒の「発表」に、「作品」に「作業製品」に多くの賞賛と励ましのことばをいただきました。保護者さんの数は変わりありませんが、近隣の方の来場が増加しているのは他の特別支援学校にはない本校の大きな特徴のひとつです。

「総合的な探究の時間」では、高等部の各学年がテーマを設定して思考力、判断力、表現力をフルに働かせ、探究する授業です。3年生は「私たちの地域をより良くしよう」というテーマで活動しました。実践として阿武隈急行の大泉駅の清掃活動をおこないました。発表後は後輩たちからこれは継続して自分たちもやっていきたいという力強いことばがありました。本校の新たな伝統となることを期待したいところです。

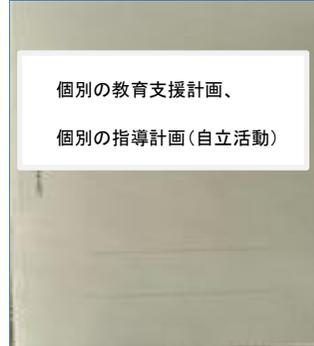
地域の方々のご支援により、ビジョンに掲げた「伊達地域で共に学び共に生きる」を実践することができました。今後も、本校に関わる全ての方々のご期待に応えられるよう、「地域と共にある学校」となるように努力して参ります。よろしくお願いたします。

教務部より

教育的ニーズの項目を追加した新しい様式の個別の教育支援計画の作成に取り組みました。

個別の教育支援計画は、卒業後の就労・生活支援への円滑な移行に向けて作成する「個別の移行支援計画」の基盤となるものです。

個別懇談時に保護者の方と確認したり、年度毎に見直しを行ったりしながら、学校や家庭等の必要な場面で活用しています。



高等部より

2月3日、保原美容組合から7名の講師をお迎えし、3学年の生徒を対象に身だしなみ講座を実施しました。卒業後の生活に向けて、身だしなみを整えることの大切さや整えるポイントを知ったり、実際にヘアセットや化粧などの体験をしたりすることで身だしなみに対する意識を高める機会となりました。真剣に話を聞いて、集中して取り組む姿に、4月から社会人となる自覚が感じられました。



生徒指導部より

今年度も福島県警察本部生活安全部少年女性安全対策課県北少年サポートセンターより職員をお招きして、SNSに関する講話をいただきました。

フィルタリングや家庭での使用の約束など具体的な事例を基に安全な使い方について学びました。

今後もスマートフォンに限らず、児童生徒の安全な学校生活が送れるように学校と家庭と連携しながら進めていきたいと思ひます。



(学校だよりは、だて支援学校 HP (<https://date-sh.fcs.ed.jp>) からご覧いただけます。)